

「入学って、スタートだった」 前へ進み続ける明大生に聞いてみた!

大学生になりたいでも本当にやりたいことが分らない...という人は意外に多いはず。個性いっぱい集まる明治大学は、切磋琢磨しながら自分だけの夢を発見し、目標を追いかけられるには絶好の舞台。もちろん、挑戦を後押しする大学のサポートも充実しています。夢に向かって進み続ける二人のインタビューに、理想の未来を実現するためのヒントがありました。

食への関心高めたい!

「紫パプリカ」の栽培を研究中

明治大学農学部生産システム学研究室では、栽培環境のシステム制御で生産性を高める研究を行っています。小野澤輝乃さんは、明治大学のスクールカラーである紫紺のパプリカを出荷するべく、日々研究に取り組んでいます。

— 研究について教えてください。

紫パプリカの栽培は、生産システム学研究室で代々受け継がれてきたテーマの一つです。パプリカは、最初は紫色の実をつけるものの、成熟するともに赤色に変化します。そのため、紫色とおいしさを両立することは難しいとされています。

現在私は、生育途中のパプリカに紫色の色素の合成を促す青色光を照射して、成熟まで紫色を継続させることを目指しています。もともとは歴代の先輩方から受け継いだアイデアで、実践するのは私が初めて。出荷できる日を夢見て、実験に取り組んでいます。

— 大変だったことは。

当初は、青色光の照射位置や時間など、すべてが手探り状態で苦労したので覚えています。また、研究はさまざまな実験の積み重ねなので、一つミスをするだけでそれまでの実験が無駄になってしまうことも。卒業した先輩や他の研究室の方にもアドバイスをいただきながら、あきらめずにトライアンドエラーを繰り返したことで、最近はやうやくスムーズに実験が行えるようになってきました。

今年の夏には、この研究を発表するために、フランスで開催される園芸学会に参加します。私の研究が多くの人の目に留まり、食に関心を持つ人が増えればうれしいです。

— 明治大学に入ってよかったことは。

私が通う生田キャンパスのそばには大学の農場があり、植え

付けから収穫、出荷の際のバック詰めまで、実践を通して学ぶことができます。



栽培のすべての過程を学ぶなか、もちろんトラブルが起こることも。害虫が発生した際の適切な対処法など、自分で解決法を模索しなければなりません。農場で学習する機会には、研究室配属前から設けられています。そこで培った課題解決能力が、研究を進める上での糧になりました。

— 受験生の皆さんにメッセージは。

私はもともと引つ込み思考な性格でした。しかし、学生のやりたいことをサポートしてくれる明治大学の環境のおかげで、今ではなんでも積極的に取り組む姿勢が身についたと思います。研究、留学、就職...どんな夢もチャレンジしやすい大学なので、本当におすすめです。



農学部4年
生産システム学研究室
(池田敬教授)
小野澤輝乃さん

〇〇〇〇高校出身



キャンパス内の温室や実験農場、近隣の農場で学んだ知識を活かし、栽培が難しいとされる紫パプリカの栽培に取り組んでいる。